福井大学リポジトリ
UNIVERSITY OF FUKUI
REPOSITORY

勝山藩成器堂の蔵書

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2007-06-05 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 瞻吹, 覚 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/10098/578

勝山藩成器堂の蔵書

膽吹　覚

1．成器堂の学問

勝山藩は、江戸時代、越前国東部を治めた譜代の小藩である。江戸前期の元禄４年（1691）、小笠原貞信が初代藩主として、美濃国高須より来封。以後、貞信の小笠原家が２万３千石を代々襲封した。

勝山藩の藩校は、成器堂と称する。成器堂の沿革について、『日本教育史資料』第４巻「旧勝山藩」には、次のように記されている。

> 天保十二辛丑年十月ノ創立ニシテ、其以前ハ、人民各自ノ望ニ任セ、有識者ニ就キ学業ヲ受ケシモ、年ヲ経ルニ従ヒ、文教漸ク衰頽シ、武道盛ニ興リ、風俗稍強暴ニ陥ラントスルヲ察シ、天保十巳亥四月、藩医師、秦魯斎ナル者上言シテ藩士、并ニ町村内蓄積アル者ニ就テ、金円ヲ利安ニ借リ、相当利子ニテ之ヲ他ニ貸与シ、其利潤ノ益金ヲ以テ書籍購求、并ニ学校建築ノ補ニ充テ度旨願出ヅルモ報アラザルニヨリ、同辛丑四月、同氏憤発再願シテ学校興立セザル可ラザルノ理ヲ縷々陳述シ、資金トシテ、一百両、并ニ書籍数十部献納セリ。依テ藩主長守公、其篤志ヲ嘉ミシ、願意聞届相成、学校建築ノ事務ヲ担当セシム。爾来益勤勉、黌舎已ニ成リ、同氏ヲ学頭ニ命ジ、世々其職ヲ襲ハシム。（76ページ）

この記事によると、成器堂の創立は天保12年（1841）10月で、それ以前は、領民はそれぞれの望みに任せて、有識者に就いて学業を受けていたという。勝山藩医師の秦魯斎（1797－1863）は、こうした藩内の教育事情を憂いて、天保10年（1839）４月、藩士ならびに町村内の蓄積ある人たちから出資金を募り、それを元手として得た利益で書籍を購入したり、学校建築費用に充てたりしたいと藩に言上したが、用いられることはなかった。そこで、その２年後の天保12年４月、魯斎は憤発し、再び藩校創立への熱い思いを縷々と陳述し、その資金として自ら金100両ならびに書籍数十部を献納した。これを見た勝山藩第８代藩主、小笠原長守公は魯斎の篤志を喜び、その願いをお聞き届けになり、藩校建築の事務を魯斎に担当させた。魯斎はこれを嬉々とし、以後ま

すます励み、ついに学舎が完成する。藩主、長守はその功績をもって、魯斎を成器堂初代学頭に命じ、また、魯斎の秦氏に世々その職を世襲させたという。

成器堂創立に大きく貢献した秦魯斎は、江戸後期の文化7年（1797）、勝山に生まれる。名は履、字は中正、魯斎はその号である。魯斎の秦家は世々、勝山藩の医官を勤める家であった。文政７年（1824）、魯斎は28歳のときに京都に出て、儒学者、田中履堂に師事し、医術を吉益北洲・緒方洪庵より学んだ。魯斎が師事した田中履堂は、越前国府中（武生）の人。履堂は、本姓は青山氏。のちに武生の田中適所の嗣子となり、京都に出て儒学を皆川淇園に受ける。淇園は寛政期の京都を代表する折衷学派の儒学者で、開物学と称する学問を開いたことでも知られる。このように魯斎の受けた儒学はその学統から見ると折衷学派に属し、更に言えば淇園の学問の影響を受けたものではなかったかということが推測できるであろう。

魯斎と同じく成器堂設立に大きく寄与した人物に林毛川（1801－1858）がいる。毛川は享和元年（1801）、勝山藩家老、林道顕の３男として出生。名は芥蔵、字は季梁、毛川はその号である。彼は文政10年（1827）、江戸の昌平黌に入学し、朱子学を学ぶ。その後、学成って帰藩し、天保11年（1840）、40歳のときに勝山藩家老職に就任。毛川は以後16年間にわたって藩政を担い、安政5年（1858）に死去。享年58であった。彼は昌平黌で朱子学を学んだ人であったが、成器堂創立に際しては、折衷学派の儒学者、亀田綾瀬（1778－1853）に「成器堂記」１篇を依頼している。また、毛川は自らの文庫、勝山文庫を建て、和漢の典籍を蒐集した。毛川の勝山文庫蔵本には「勝山／文庫」（縦５㎝×横５㎝、方形朱印）の蔵書印が捺されている。この勝山文庫蔵本は、後に成器堂の文庫に収められて、成器堂の発展に大きく貢献するが、このことについては、後に詳しく述べたい。

文久３年（1863）９月、秦魯斎の嗣子、勤有が父の業を受けて、成器堂第２代学頭となる。勤有は、はじめは父魯斎と同じく漢方医学を学ぶが、後に江戸に出て杉田玄端に師事して西洋医学を学び、さらに下総佐倉藩医、佐藤尚中からも西洋医学を修めて帰藩。勝山藩に西洋医学を導入し、福井藩よりアメリカ人のフィコーフル、イギリス人のマゼットを巡回教授として招き、その・普及に尽力した。

三上一夫『福井県の教育史』（思文閣出版、昭和60年刊）は、成器堂の教授として、秦魯斎、林毛川以外に、丸山鳴石（元飯田藩儒員）、安田三渓（勝山藩藩士、医師）、林雪篷、長谷川外波（勝山藩医官、儒学は折衷学派の梁川星巌に学ぶ）、斎藤新九郎の氏名を掲げているが、現在のところ、私にはこれらの教員に関して、三上氏の記述以外の経歴は不明である。膽吹が推測するに、勝山藩成器堂は、儒学は一貫して折衷学派の学問が教授され、医学はその初期は漢方医学が中心であったが、勤有がその第2代学頭に就任した後は西洋医学が中心になっていったのであろう。

『日本教育史資料』第４巻「旧勝山藩」の「学科学規試験法及諸則」に「漢学、医学、習礼、及、槍剣ヲ教授シ、生徒ヲシテ文武両道ヲ兼修セシム。」（77ページ）とあるように、成器堂では、儒学（漢学）、医学、習礼の３教科、及び槍剣（武術）が教授されていた。これらの科目で採用

していた教科書などについて、『日本教育史資料』は次のように記している。

教科用書ハ等級ヲ設ケ、用書ヲ区分スルアラズ。然レドモ、順序概ネ学、庸、論、孟、易、春秋、詩、書、礼、左伝、戦国策、十八史略、八大家等ノ類ヲ授ク。其時間等左ノ如シ。

○素読　毎朝　卯ノ刻ヨリ巳ノ刻迄　但、朔望ハ休講

○講釈　毎月六回　午ヨリ申ノ刻迄　但、学、庸、詩、書、易、礼等ノ類

○会読　毎月六回　午ヨリ申ノ刻迄　但、論、孟、左伝、戦国策、十八史略等ノ類

○詩文会　毎月二回　酉ノ刻ヨリ亥ノ刻迄

○剣術　奇　隔日　卯ヨリ巳ノ刻迄

○槍術　偶　隔日　卯ヨリ巳ノ刻迄

○習礼　毎月三回　午ヨリ未ノ刻迄

○医学講釈　毎月三回　午ヨリ申ノ刻迄　但、素問、霊枢等ノ類

○同会読　毎月三回　同　但、傷寒論、金匱、温疫論、千金方、外臺秘要等（77ページ）

この記事に従えば、成器堂の儒学では四書五経をはじめ、『戦国策』『十八史略』などの史書が、また、医学では『素問』『霊枢』をはじめ、『傷寒論』『金匱』『温疫論』『千金方』などのいわゆる漢方医学書が採用されていたようである。ただし、前述のとおり、秦勤有が成器堂第２代学頭に就任したあとは、成器堂の医学も西洋医学が中心になっていたはずであり、それにともなって医学の教科書も西洋医学のそれに変更されたはずであるが、それについては『日本教育史資料』は触れていない。

成器堂はその後、明治５年（1872）8月３日の学制頒布によって廃校となり、その後は校名を成器小学校と改めて、成器堂の校舎、校地、書籍等の一切が継承され、昭和22年（1947）よりは成器西小学校となって、現在に至っている。

２．成器堂の蔵書目録と成器堂旧蔵本

今回、国立国会図書館、福井県立図書館、勝山市立成器西小学校、勝山市立図書館を調査したが、成器堂の蔵書目録を発見することはできなかった。成器堂の蔵書については、『日本教育史資料』第４巻「旧勝山藩」に、「出版或ハ翻刻セシ書籍ナシ。蔵書ノ種類部数左記ノ如シ。経書二十八部、史類三十三部、子類四部、集類二十七部、皇書十二部、洋書二十七部」（77～78ページ）とあり、計131点が所蔵されていたと記録されている。今回の調査では、成器堂旧蔵書は国立国会図書館、勝山市立成器西小学校、勝山市立図書館、の3箇所で計約200点が所蔵されていることが確認できた。

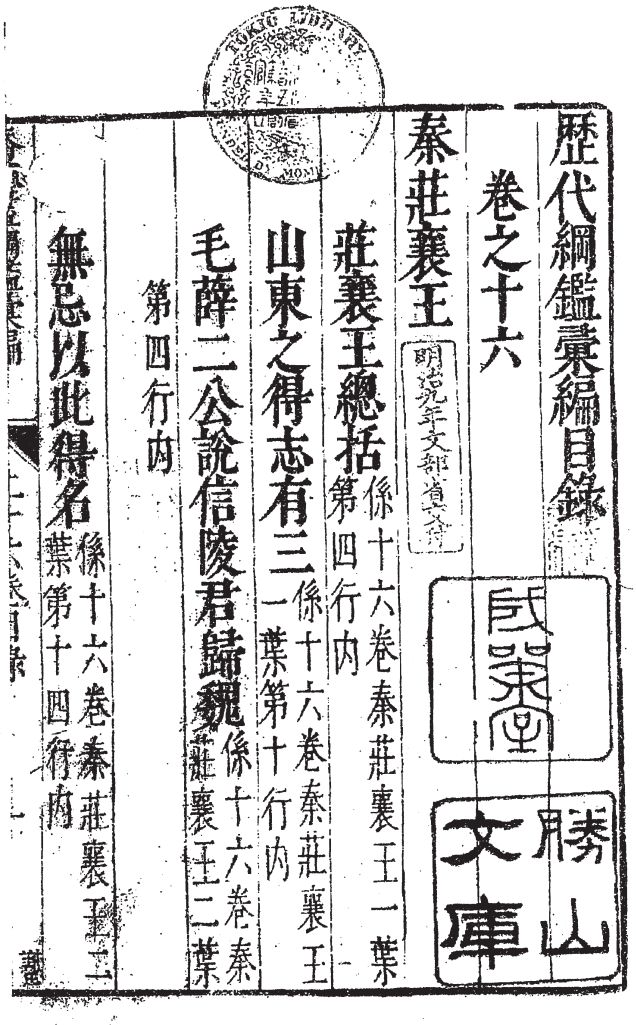
まず、西村正守・佐野力「東京書籍館における旧藩蔵書の収集」（『図書館研究シリーズ』15号、国立国会図書館、昭和48年刊）収録「交付書目」に拠ると、明治９年（1876）３月５日付で敦賀

県（旧勝山藩）から東京書籍館（国立国会図書館）に、下記の３点が提出、移管されている。

○旧勝山藩

漫遊記	2冊
綱鑑彙編	65冊
類聚国史考異	30冊

この３点は、発足間もない東京書籍館（現在の国立国会図書館）がその充実を図るために、各旧藩の藩校旧蔵本を提出させて収蔵したものの一部である。この中から『綱鑑彙編』（国立国会図書館では『歴代綱鑑彙編』の書名で所蔵。請求記号240－19）第16巻第１丁表の複写を下に掲げる。その右下部に見える「成器堂」（縦５㎝×横５㎝の方形朱印）の印記が、成器堂の蔵書印



で、「成器堂」の下に見える「勝山／文庫」の印記は、勝山藩家老、林毛川の蔵書印である。この2種の印記は下図のように併印されていることが多い。

次に、勝山市立成器西小学校には、成器堂旧蔵本として125点の書籍が所蔵されている。しかし、このうち成器堂旧蔵本と言えるのは下記の7点（漢籍5点と国書2点）のみで、それ以外の118点は成器堂廃校後、その後身として創立された成器小学校（現在の成器西小学校）で使用された教科書類であり、これらは厳密には成器堂旧蔵書とは言い難く、今回は下記の7点のみを勝山市立成器西小学校所蔵成器堂旧蔵本として報告する。

勝山市立成器西小学校所蔵成器堂旧蔵本

1．礼記集註	30巻13冊	文政13年版
2．新増箋註蒙求	2巻2冊（上巻欠）	嘉永2年版
3．唐宋八大家読本	30巻16冊（巻23,24,29,30のみあり）	文化11年版
4．増評唐宋八大家読本	30巻16冊（巻1,9-10,17-20,25-28のみあり）	
5．増纂評註文章規範続編	7巻3冊（第1,3冊欠）	
6．本朝通記	55巻30冊（巻3-4,7-8のみあり）	元禄11年版
7．皇朝戦略編	15巻15冊（巻1,3,14欠）	安政3年版

上記の典籍は後に掲げる「勝山市立図書館蔵成器堂旧蔵書目」収録典籍と補完し合うものであり、今後は成器堂旧蔵本として一箇所に所蔵されることを望む。なお、上記のうち、№1、2、4、5、7には「成器堂」、№2～6には「勝山／文庫」の蔵書印が、それぞれ捺印されていることを記しておく。

最後に、勝山市立図書館所蔵の成器堂旧蔵本について述べる。現在、勝山市立図書館には成器堂旧蔵本として200点の典籍が所蔵されている。その中には成器堂廃校後に刊行された書籍も数点含まれているが、勝山市立図書館ではそれらを含めて、一括して成器堂旧蔵本とし所蔵しているので、それに従った。今回、勝山市立図書館の協力を得て、勝山市立図書館所蔵成器堂旧蔵本の調査を実施し、その成果を「勝山市立図書館所蔵成器堂旧蔵書目」として、本稿巻末に掲載した。

「勝山市立図書館所蔵成器堂旧蔵書目」にあるとおり、勝山市立図書館が所蔵する成器堂旧蔵本は、漢籍（準漢籍11点を含む）が149点、国書が51点の計200点である。漢籍が国書より多数を占める傾向は、藩校の蔵書では一般的なことといってよいであろう。漢籍では経書が56点、史書が52点、子書が19点、集書が10点、叢書が1点、準漢籍が11点であった。このうち経書では、富山藩藩校、廣徳館版四書集註が所蔵されていることが注目される。笠井助治『近世藩校の出版書の研究』（吉川弘文館、昭和37年3月刊）によると、この廣徳館版の四書集註は、同館版五経とともに慶応2年（1866）に刊行され、その部数は1万余部に及んだという。史書では、『史記』

『資治通鑑』『資治通鑑綱目』『歴史綱鑑補』をはじめ、『前漢書』から『五代史』に至るまでの代表的な史書がほぼ揃っているといってよいであろう。また、『戦国策』『十八史略』の書名が見えることは『日本教育史資料』の記載のとおりである。子書は特筆すべきことはない。集書は経書史書と比較して少ないが、唐宋代の詩文集が中心である。『日本教育史資料』によると、成器堂では毎月２回の詩文会が開催されていたようである。今回の調査から推測するに、この詩文会では唐宋代の詩文に倣った作品が作られていたのではなかろうか。

『日本教育史資料』に拠ると、成器堂では国学が科目として教授されたことはなかったようである。しかし、勝山市立図書館には成器堂旧蔵本として51点の国書が所蔵されている。その内訳を見ると、歴史書が17点と最も多く、次いで医学書が７点、政治・法制の書が６点の順である。成器堂旧蔵の歴史書は通史が多く、また、成器堂旧蔵『群書類従』はその合戦の部（第369巻から第399巻と合戦部目録）のみであり、さらに『延喜式』や『公事根源集釈』など有職故実書が所蔵されていることなどから見て、これらの国書は、藩士（武士）としての一般的な教養として、成器堂に架蔵されていたのではなかろうか。また、医学書が７点と極めて少なく、かつ、その内容も東洋医学書のみで、幕末に秦有勤によって導入された西洋医学の書物が見えないことが不可解である。成器堂旧蔵の医学書はその多くが散逸したかのかもしれない。なお、勝山藩主小笠原家は伊那松尾小笠原の系譜を引く小笠原信嶺をその祖とし、信嶺の曾孫、貞信よりは代々、勝山藩を襲封した家である。この貞信の小笠原家には、室町時代の武家文書の典型の一つとされる「小笠原文書」が伝領されていたことは、よく知られていることである。しかし、今回の調査では勝山市立図書館蔵成器堂旧蔵本から武家礼法書類を見出すことはできなかった。「小笠原文書」は、現在は東京大学史料編纂所に移管されている。

さて、前述のとおり、成器堂に関係する蔵書印は、「成器堂」と「勝山／文庫」の２種類である。勝山市立図書館蔵成器堂旧蔵本全200点中118点に「成器堂」の印記が捺されていた。これは勝山市立図書館蔵成器堂旧蔵本の59％にあたる。これを漢籍国書別に見ると、漢籍は149点中101点（68％）に、国書は51点中17点（33％）にそれぞれ捺されていた。一方の「勝山／文庫」の印記は、勝山市立図書館蔵成器堂旧蔵本全200点中70点に捺されていた。これは勝山市立図書館蔵成器堂旧蔵本全200点の35％にあたる。これもまた、漢籍国書別に見ると、漢籍は149点中59点（40％）に、国書は51点中11点（22％）にそれぞれ捺されていた。また、「勝山／文庫」と「成器堂」の２種類の印記が併印されている典籍は、「勝山／文庫」の印記が捺された70点中52点（74％）にのぼる。「勝山／文庫」は、前述のとおり、成器堂創立に尽力した勝山藩家老、林毛川の個人の蔵書印である。毛川は成器堂設立に際して、自らの文庫所蔵の典籍を成器堂に移管、あるいは寄付し、成器堂の教育に役立てようとしたのであろう。１個人の蔵書が藩校の蔵書の約３割を占めるという事実は、毛川が、成器堂、並びに、勝山藩の教育に多大な貢献をした証左となるであろう。成器堂の蔵書については、毛川以外にも、本稿第１章で引用した『日本教育史資料』に「同氏（秦魯斎のこと、膽吹注）憤発再願シテ学校興立セザル可ラザルノ理ヲ縷々陳述シ、資

金トシテ、一百両、并ニ書籍数十部献納セリ。」とあり、成器堂初代学頭、秦魯斎が献納した書籍が数十部あったことが知られている。しかし、この秦魯斎旧蔵本については、今回の調査では蔵書印の観点からは、それを確認することはできなかった。なお、本調査において、成器堂旧蔵本に「学章」（縦 2 cm × 横 2 cm、方形朱印）の印記を多く見た。これもおそらく成器堂の蔵書印に間違いないであろうが、一般論として、藩校の蔵書印を調査すると、「学校」等の印記はしばしば見られることであり、その印記が何藩の藩校のものであるか、甚だ困却に陥ることがあることは、すでに朝倉晴彦氏が「上野図書館所蔵藩校旧蔵本略記」（『文献』第 2 号）で述べておられるとおりである。

今回の調査では勝山藩成器堂の蔵書目録を見出すことはできなかった。しかし、国立国会図書館、勝山市立図書館、並びに、同市立成器西小学校所蔵の成器堂旧蔵本の調査が実施できたことで、成器堂旧蔵本の全容がほぼ明らかになったといってもよいであろう。また、本調査で、成器堂創設に際して、勝山藩家老、林毛川が自らの文庫、勝山文庫所蔵の典籍を、藩校成器堂の文庫に移管、あるいは寄付し、成器堂の教育に役立てようとしたことが、その蔵書印を通じて明らかになった。現在、毛川の遺徳を偲ぶ碑が、勝山市市民会館前に建てられているが、今日の福井県民にとって、毛川はあまり知られていないようである。しかし、本稿における考察を踏まえるならば、毛川は教育者として、もっと高く評価されて良いはずである。

附録　勝山市立図書館蔵成器堂旧蔵書目

〔凡例〕

一、この書目録には勝山市立図書館蔵成器堂旧蔵書200点を収める。

一、この書目録は漢籍之部（準漢籍を含む）と国書之部の 2 部構成とする。

一、分類並びに配列は、漢籍之部は『改訂内閣文庫漢籍分類目録』に、国書之部は『内閣文庫国書分類目録』に拠った。

一、記述内容は、番号、蔵書印（★は「成器堂」、☆は「勝山文庫」を表す）、書名、巻冊数、刊行年或は書写年（不明の場合は空欄）、の順とする。なお、各項目に冠した番号は本目録作成に際して、膽吹が新たに付したものであり、勝山市立図書館が付したものではない。

●漢籍之部

1．経書之部

001	★	☆	周易註疏	9 巻 6 冊	嘉慶 3 年版
002	★		易経集註	24巻13冊	
003	★	☆	毛子鄭箋	20巻 5 冊	享和 2 年版
004	★	☆	毛詩註疏	24巻20冊	
005	★	☆	尚書註疏	20巻10冊	
006	★		書経集註	6 巻 6 冊（巻1,3,4欠）	文政13年版
007	★		詩経集註	4 巻 8 冊	文政13年版
008		☆	詩経説約	28巻14冊	寛文 9 年版
009	★	☆	詩緝	36巻18冊	弘化 2 年版
010	★	☆	周礼註疏	42巻20冊	
011	★	☆	礼記註疏	63巻30冊	
012	★	☆	儀礼註疏	17巻14冊	
013	★	☆	春秋釈例	15巻 8 冊	嘉慶 2 年版
014	★	☆	春秋左氏伝註疏	60巻30冊	
015		☆	春秋左伝評林	70巻15冊	寛政 5 年版
016		☆	左伝註疏正義	60巻30冊	
017	★		春秋左氏伝	30巻15冊	寛政12年版
018			春秋左氏伝校本	30巻15冊（巻1,2,5,6欠）	
019	★	☆	春秋左氏伝校本	30巻15冊	文化 8 年版

020	★		左繡	30巻16冊	安政２年版
021	★	☆	春秋公羊伝註疏	28巻８冊（巻4-9欠）	
022	★	☆	春秋穀梁伝註疏	20巻５冊	
023	★		春秋集註	38巻15冊	文政13年版
024	★	☆	孝経註疏	９巻１冊	
025	★		新版十三経註疏	328巻146冊	嘉慶18年版
			１．周易	９巻６冊	
			２．尚書註疏	20巻８冊	
			３．毛詩註疏	20巻18冊	
			４．周礼註疏	42巻16冊	
			５．儀礼註疏	12巻17冊	
			６．礼記註疏	63巻24冊	
			７．春秋左氏伝註疏	60巻24冊	
			８．春秋公羊伝註疏	28巻11冊	
			９．春秋穀梁伝註疏	20巻６冊	
			10．論語註疏解経	20巻５冊	
			11．孝経註疏	９巻１冊	
			12．爾雅註疏	11巻４冊	
			13．孟子註疏解経	14巻６冊	
026	★		大学章句	１冊	富山廣徳館版
027	★		大学章句	１冊	富山廣徳館版
028	★		大学章句大全	１冊	
029	★		大学或問大全	１冊	
030			大学	１冊	明治16年版
031	★		中庸章句	１冊	富山廣徳館版
032	★		中庸章句大全	１冊	
033	★		中庸或問大全	１冊	
034			中庸	１冊	
035	★		論語集註	10巻４冊	富山廣徳館版
036	★		論語集註	10巻４冊	富山廣徳館版
037	★		論語集註大全	20巻10冊	
038	★		論語註疏	20巻４冊	
039			論語	10巻４冊	
040★			孟子集註	14巻４冊	富山廣徳館校正・慶応２年版

041	★		孟子集註	14巻 4 冊	富山廣徳館校正・慶応 2 年版
042	★		孟子集註	14巻 4 冊	富山廣徳館校正・慶応 2 年版
043	★		孟子集註大全	14巻 7 冊	元禄 4 年版
044	★		孟子註疏	14巻 6 冊	
045			孟子	14巻 4 冊	
046			孟子	1 冊（巻 4 のみ有）	
047	★		四書大全	48冊	嘉永 7 年版
048	★	☆	四書匯参	43巻42冊	天保 7 年版
049	★		四書蒙引	15巻20冊	寛永13年版
050	★	☆	爾雅註疏	11巻 4 冊	
051		☆	重刊許氏説文解字五音韻譜	12巻12冊	寛文10年版
052	★	☆	増続大廣益会玉篇大全	1 冊（巻 1 のみ有）	嘉永 7 年版
053			増続大廣益会玉篇大全	1 冊（巻 2 のみ有）	
054	★	☆	正字通	12巻40冊	
055		☆	正字通	12巻40冊	
056			詩韻含英	18巻 4 冊	文化12年版

2．史書之部

057	★		史記	130巻20冊	
058			史記評林	130巻50冊	寛永13年版
059	★		史記評林	130巻50冊	延宝 2 年版
060		☆	史記評林	130巻25冊（第 5 冊欠）	寛政 4 年版
061		☆	史記論文	30巻25冊	文政11年版
062	★	☆	前漢書	120巻30冊	
063	★		漢書評林	100巻50冊	明暦 3 年版
064	★		後漢書	80巻60冊	
065	★	☆	後漢書	130巻20冊	
066	★		三国志	65巻12冊	
067		☆	晋書	130巻53冊	元禄15年版
068	★		晋書	130巻30冊	
069	★		宋書	100巻20冊	
070	★		南齊書	59巻10冊	
071	★		梁書	56巻 7 冊	

072	★		陳書	36巻 4 冊	
073	★		魏書	130巻30冊	
074	★		北齊書	50巻 6 冊	
075			周書	50巻 8 冊	
076	★		隋書	85巻20冊	
077	★		南史	80巻20冊	
078	★		北史	100巻24冊	
079	★		唐書	225巻50冊	
080	★		五代史	74巻15冊	文化10年版
081	★		五代史	74巻15冊（巻24-65有）	
082	★	☆	資治通鑑	294巻147冊（巻133欠）	天保 7 年版
083	★	☆	資治通鑑綱目	59巻59冊	文政 2 年版
084	★	☆	通鑑	48巻16	
085	★		歴史綱鑑補	39巻20冊	寛文 3 年版
086			歴史綱鑑補	39巻20冊	寛文 3 年版
087	★		尺木堂綱鑑易知録	93巻48冊	
088	★		尺木堂明鑑易知録	15巻 7 冊	
089			通鑑記事本末（前編）	12巻10冊	
			同　（正編）	42巻43冊	
			同　（明編）	80巻24冊	
			同　（宋編）	10巻10冊	
			同　（元編）	4 巻 3 冊	
090			弘簡録	254巻80冊（61,62,65,66欠）	
091	★		続弘簡録	42巻20冊	
092		☆	十八史略	7 巻 7 冊	万治 2 年版
093	★	☆	標記増補十八史略	7 巻 7 冊	天保10年版
094			標記増補十八史略	7 巻 7 冊（第 1 冊のみ有）	明治 8 年版
095			標註十八史略読本	7 巻 7 冊	明治 8 年版
096			標註十八史略読本	7 巻 7 冊（第1,2冊欠）	明治 8 年版
097			箋註十八史略校本	7 巻 7 冊	明治12年版
098			標註十八史略校本	7 巻 7 冊	明治17年版
099			増補十八史略字引大全	1 冊	明治14年版
100		☆	増補元明史略	4 巻 4 冊	文化元年版
101	★	☆	国語	20巻 6 冊	文化 6 年版

102	★		戦国策		10巻15冊	寛保元年版
103		☆	貞観政要		10巻10冊（巻 5 欠）	文政 6 年版
104	★		五朝名臣言行録	（前集）	10巻 3 冊	
			同	（後集）	14巻 3 冊	寛文 7 年版
			同	（別録）	17巻　冊	嘉永元年版
105	★	☆	大明一統志		90巻50冊	
106		☆	文献通考纂		22巻28冊	
107		☆	続文献通考纂		22巻12冊	
108	★		歴代名臣奏議		31巻19冊	長門明倫館版

3．子書之部

109		☆	荀子箋釈		20巻 8 冊	文政13年版
110		☆	荀子増註		20巻11冊	文政13年版
111			小学		6 巻 3 冊（第 1 冊欠）	明治15年版
112			小学正文		6 巻 2 冊	寛文 7 年版
113	★	☆	武経直解		12巻 7 冊	寛永20年版
114			管子全書		24巻13冊	寛政 8 年版
115	★	☆	新増箋註蒙求		2 巻 2 冊（下巻欠）	嘉永 2 年版
116	★		世説新語補		20巻10冊	元禄 7 年版
117	★	☆	新編古今事文類聚	（前集）	60巻21冊	
			同	（後集）	50巻20冊	
			同	（続集）	28巻13冊	
			同	（新集）	36巻15冊	
			同	（外集）	15巻 8 冊	
			同	（別集）	32巻14冊	
			同	（遺集）	15巻 9 冊	寛文 6 年版
118			本草綱目		55巻38冊	寛文12年版
119	★	☆	淵鑑類函		450巻　冊（巻86-320欠）	
120			類腋		67巻20冊（天1-4,地3-10,人11-15物,9-12有）	
121	★		円機活法詩学全書		24巻25冊（第1,3,10,11,20冊欠）	
122	★		円機活法韻学全書		14巻14冊（巻10欠）	明暦 2 年版
123	★	☆	五車韻瑞		160巻30冊（第 8 冊欠）	万治2年版
124			佩文韻府		106巻？冊（巻19,22下,42,57-59欠）	

125	★	☆	老子経	2 巻 2 冊（上巻欠）	明暦 3 年版
126	★	☆	莊子大全	21巻21冊	万暦癸己年版
127	★		莊子因	6 巻 6 冊	寛政 9 年序

4．集書之部

128	★	☆	柳文	45巻36冊	寛文 4 年版
129	★	☆	韓文	40巻40冊	万治 3 年版
130	★		李善註文選	20巻10冊	
131	★		六臣註文選	60巻31冊	寛文 2 年版
132	★	☆	文体明弁	61巻61冊	嘉永 5 年版
133	★	☆	古文析義	14巻 8 冊	
134	★		増評唐宋八家文読本	30巻16冊	安政 2 年版
135	★	☆	増評唐宋八家文読本	同上（巻1,9,10,17-20,25-28欠）	安政 2 年版
136			増評唐宋八家文読本	30巻16冊	明治 8 年版
137		☆	官板唐宋八家文読本	30巻16冊（巻1-3,7-16,21-24,29-30欠）	

5．叢書

138			武英殿聚珍版書	20函	浙江省重刊

6 準漢籍

139	★	☆	春秋左伝雕題略	6 巻 6 冊	弘化 3 年版
140	★		清三朝実録採要	6 巻 8 冊	天保 4 年版
141			管子纂詁	24巻12冊	慶応元年版
142			唐詩選掌故	7 巻 3 冊（上巻欠）	寛政 5 年版
143			古文前集余師	4 巻 4 冊	天保 7 年版
144	★	☆	続文章規範評林註釈	7 巻 3 冊	寛政 6 年序
145	★	☆	続文章規範評林註釈	7 巻 3 冊	寛政 6 年序
146	★	☆	安政改鐫文章規範纂評	7 巻 3 冊	
147			安政改鐫文章規範纂評	7 巻 3 冊	
148	★	☆	増纂評註文章規範続編	7 巻 3 冊（第 2 冊欠）	
149			文章規範質問録	2 巻 2 冊	明治 9 年版

●国書之部

1．総記

150	★		日記故事大全	7 巻 3 冊（上下巻欠）
151	★	☆	群書類従	530巻667冊（巻369-399有。附合戦部目録）
152			貞丈雑記	16巻32冊

2．神祇　なし

3．仏教

153	三国仏教略史	3 巻 3 冊（下巻欠）	
154	安土問答諺註	5 巻 5 冊（巻 2 欠）	文化11年版
155	御文章随問釈義	4 巻 4 冊	享保 6 年序
156	父母恩重経鈔	2 巻 2 冊	元禄10年版

4．言語

157	小学日本語文典	3 巻 2 冊	明治 7 年版
158	名乗外史字引	1 冊	明治 9 年版
159	開化清雅用文	1 冊	明治11年版

5．文学

160	普通案文	上巻のみ	明治 9 年版
161	今世名家文鈔	8 巻 8 冊	安政 2 年版
162	仏山堂詩鈔	3 巻 3 冊	嘉永 5 年版

6．音楽・演劇　なし

7．歴史

163		☆	本朝通紀	55巻30冊（巻3-4,7-8欠）	元禄11年版
164	★		皇朝史略	12巻12冊	
165	★		続皇朝史略	5 巻 5 冊	
166			国史略	5 巻 5 冊	明治 4 年版
167			国史略	5 巻 5 冊	明治 4 年版
168	★	☆	日本外史	22巻22冊（巻4-22欠）	
169	★	☆	日本外史補	14巻 9 冊	
170			啓蒙日本外史	7 巻35冊（第21,34冊欠）	明治 8 年版
171	★		日本政記	16巻 8 冊（第3,5,6冊欠）	文久元年版
172			日本略史	4 巻 4 冊	明治 9 年版
173			日本略史	4 巻 4 冊（巻 1 欠）	明治15年版
174			刪修近古史談	4 巻 4 冊（巻 1 欠）	明治17年版
175			刪修近古史談字解	1 巻 1 冊	明治17年版
176		☆	陰徳太平記	81巻81冊（巻2-6,17-23,38-40,62-81欠）	
177			慶安太平記	20巻20冊（巻14,17,18欠）	
178			旧幕府聖堂釈奠図	1 冊	
179			泰西史鑑（上編）	10巻10冊（ 4 冊のみ有）	明治 2 年版

8．地理

180	★		地球説略	3 巻 3 冊	
181			地球説略	3 巻 3 冊（下巻欠）	

9．政治・法制

182			通議	3 巻 3 冊（巻1,3欠）	
183	★		延喜式	50巻50冊	
184	★		延喜式考異	7 巻 8 冊	
185	★		延喜式考異附録	3 巻 3 冊	
186			永世武鑑	1 冊（第 2 冊のみ有）	
187		☆	公事根源集釈	3 巻 3 冊	元禄 7 年版

10. 経済　なし

11. 教育

188	★	☆	靖献遺言	8 巻 3 冊（巻7,8欠）	慶応元年版
189			自助論	13巻11冊（巻1-5,8,11-13欠）	
190			玉鉾余滴	3 巻 3 冊（巻上下欠）	

12. 理学　なし

13. 医学

191			改正衆方規矩備考大成	10巻10冊（巻1,6,7有）	元禄10年版
192	★	☆	本草綱目啓蒙	52巻24冊（巻10-12欠、13-52写本）	文化 8 年版
193	★	☆	全体新論	2 巻 2 冊	安政 4 年版
194	★	☆	内科新説	3 巻 3 冊（上巻欠）	
195	★	☆	婦嬰新説	2 巻 2 冊	安政 6 年版
196			原病学通論	9 巻 5 冊（巻3-9欠）	明治 7 年版
197			養生篇（百科全書零本）	2 巻 2 冊（下巻欠）	

14. 産業　なし

15. 芸術

198			名公墨宝	3 巻 3 冊	正保 3 年版

16. 諸芸

199			対手百談	4 巻 4 冊（巻1,4欠）	

17. 武学・武術

200	★		皇朝戦略編	15巻15冊（巻2-15欠）	安政 2 年版

以上

〔参考文献〕

1959年12月　朝倉治彦「上野図書館所蔵藩校旧蔵本略記」　『文献』第２号
1961年12月　岡田温「旧上野図書館の収集方針とその蔵書」　『図書館研究シリーズ』第５号
1962年３月　笠井助治『近世藩校に於ける出版書の研究』　吉川弘文館
1970年７月　笠井助治『近世藩校に於ける学統学派の研究』　吉川弘文館
1972年12月　文部省編『日本教育史資料』第４巻　臨川書店（再刷発行）
1973年２月　西村正守・佐野力「東京書籍館における旧藩校蔵書の収集」　『図書館研究シリーズ』第16号
1985年５月　三上一夫『福井県の教育史』　思文閣出版
1987年３月　朝倉治彦『書庫縦横』収録「藩校の蔵書」　出版ニュース社
1987年３月　矢野貫一『聖藩文庫目録』　加賀市立図書館
1989年６月　木村礎編『藩史大事典』第３巻　雄山閣出版
1990年７月　成器西小学校創立120周年記念事業実行委員会『福井県勝山市立成器西小学校120年史』
1996年８月　増田公輔『勝山藩校　成器堂』　勝山神明神社
2003年12月　朝倉治彦監修・膽吹覚解説『福井藩明道館書目』　ゆまに書房
2005年１月　朝倉治彦監修・膽吹覚解説『彦根藩弘道館書籍目録』　ゆまに書房
2006年３月　大石学編『近世藩制藩校大事典』　吉川弘文館
2006年３月　膽吹覚「近江国膳所藩遵義堂の蔵書」　『国語国文学』第45号　福井大学言語文化研究会

〔附記〕

本稿は文部科学省科学研究費（若手Ｂ・課題番号17720032）「藩校の蔵書目録の研究―北陸地方を中心に―」の成果である。本研究にご協力いただいた朝倉治彦先生、国立国会図書館、福井県立図書館、勝山市立図書館（同館長、平泉洸祥氏）、勝山市立成器西小学校（同校長、竹原幸雄氏）にお礼申し上げます。